

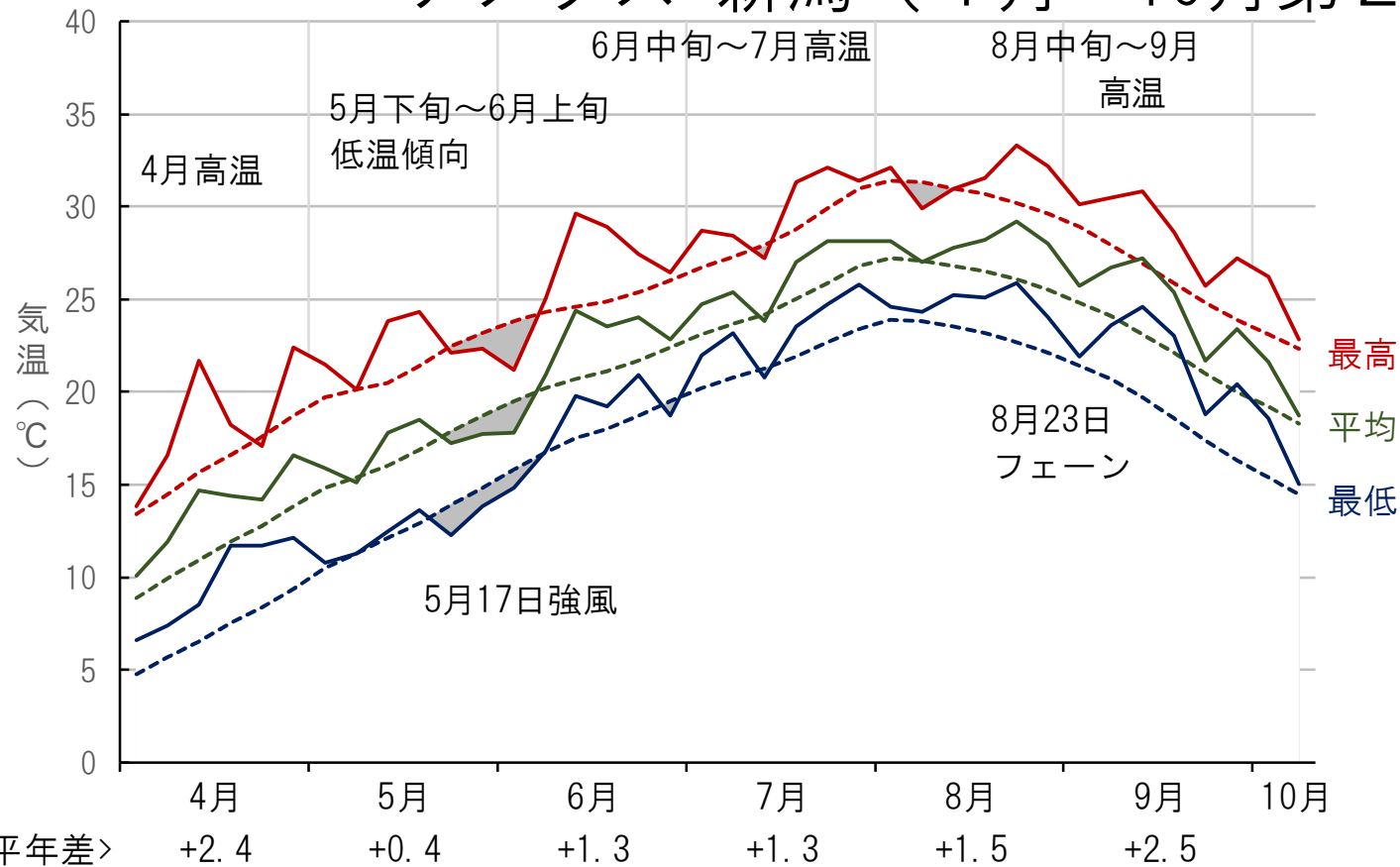
令和6年産米の作柄、品質の 状況とその要因

新潟県農林水産部

2024年11月21日

令和6年の水稲生育期間の気温

アメダス-新潟（4月～10月第2半旬）

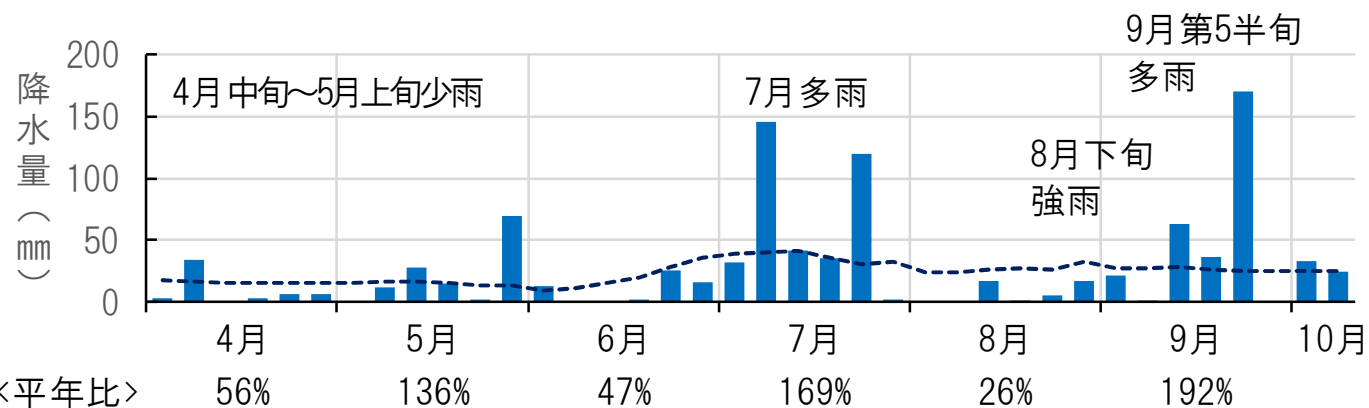
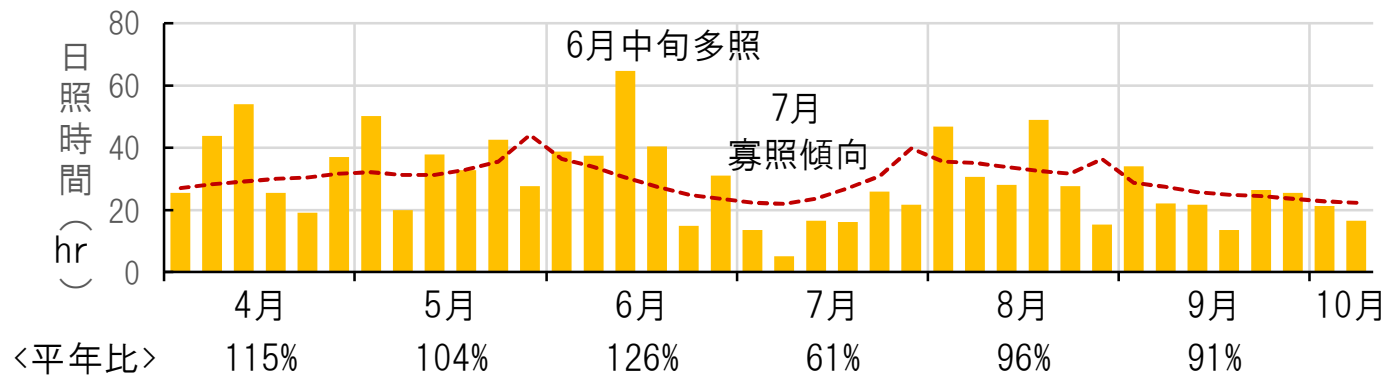


注) 1 データは、気象庁ホームページから引用した。
2 実線は本年値、破線は平年値である。
3 平年値は1991年から2020年まで30年間の平均値である。

- 4月が高い
- 5月下旬～6月上旬は低い
- 8月中旬～9月は高～かなり高い

令和6年の水稲生育期間の日照・降水量

アメダス-新潟（4月～10月第2半旬）



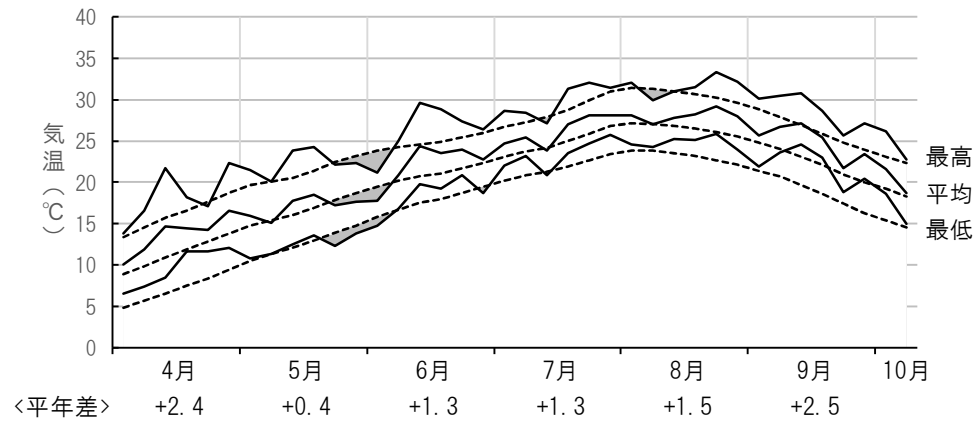
注) 1 データは、気象庁ホームページから引用した。
 2 棒グラフは本年値、破線は平年値である。
 3 平年値は1991年から2020年まで30年間の平均値である。

- 少雪と春期の少雨
- 梅雨入り 6/22～梅雨明け 7/31頃、7月日照不足
- 8月下旬と9月中～下旬の局所的な強雨

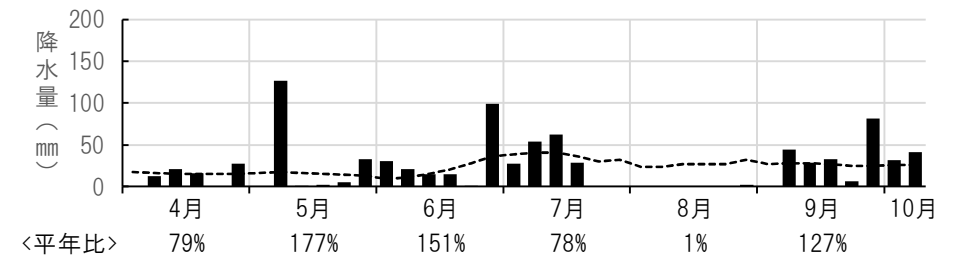
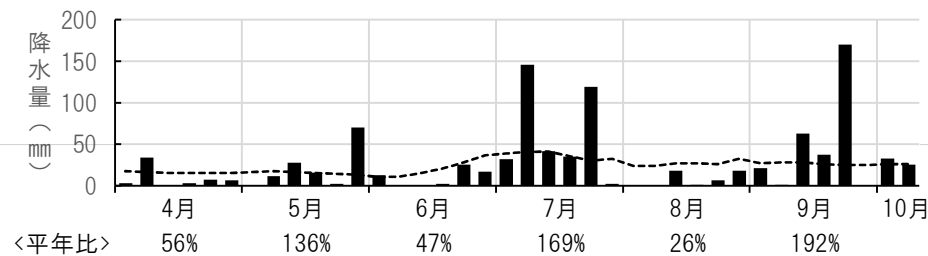
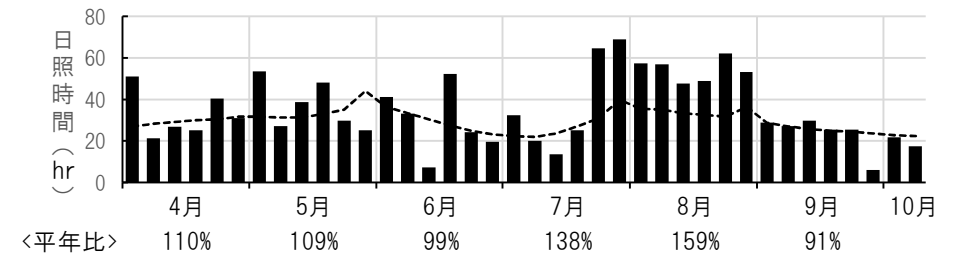
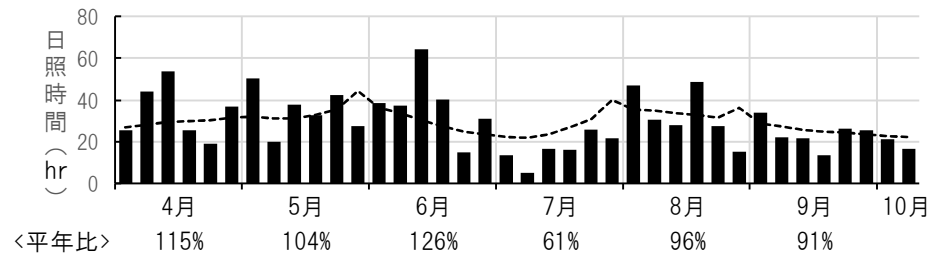
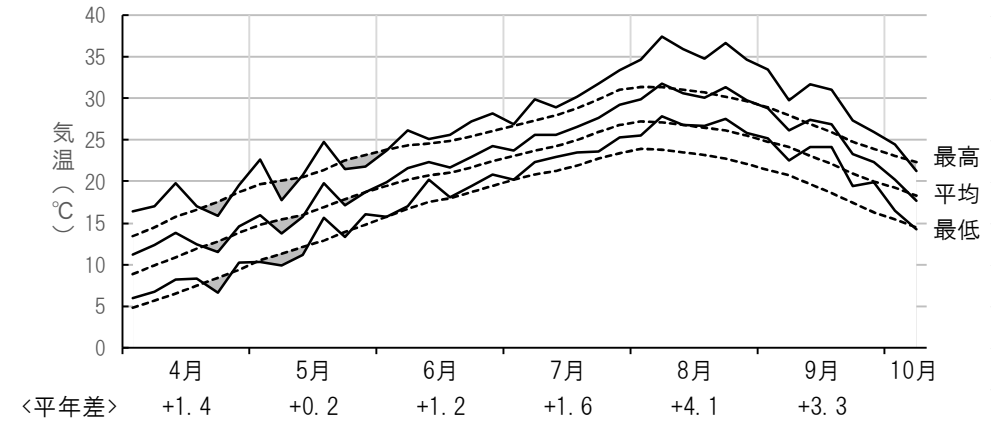
令和6年と5年の水稲生育期間の気象

アメダス-新潟（4月～10月第2半旬）

○令和6年度



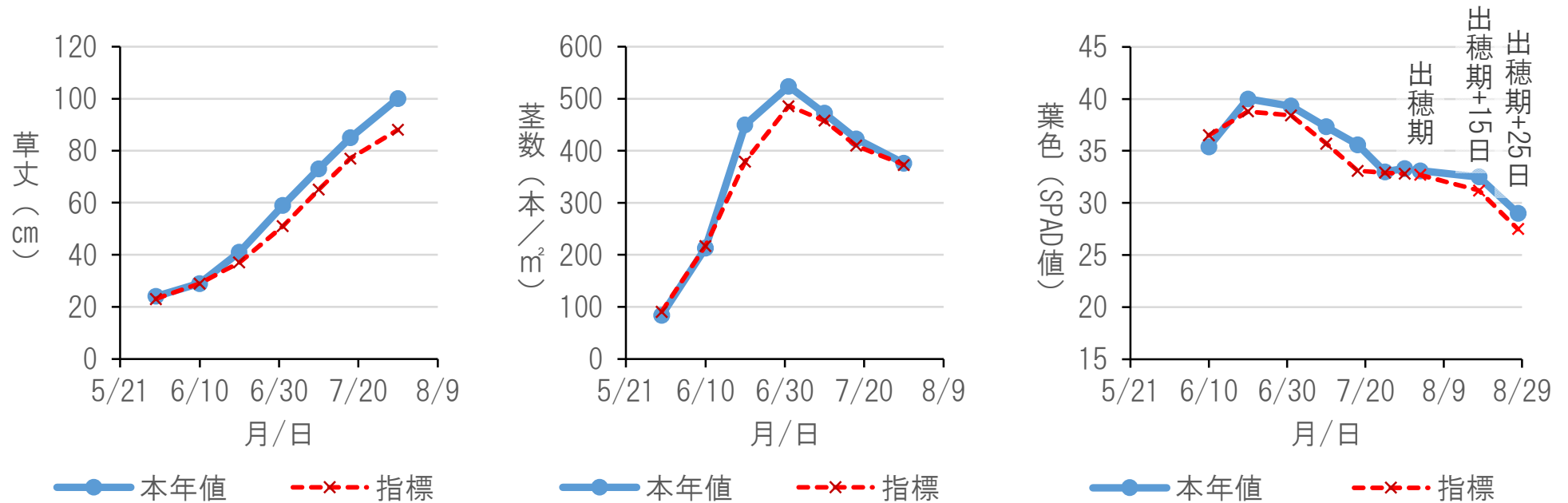
○令和5年度



- 注) 1 データは、気象庁ホームページから引用した。
 2 実線または棒グラフは本年値、破線は平年値である。
 3 平年値は1991年から2020年まで30年間の平均値である。

コシヒカリの生育概況

県内全域の15生育調査ほデータの平均値

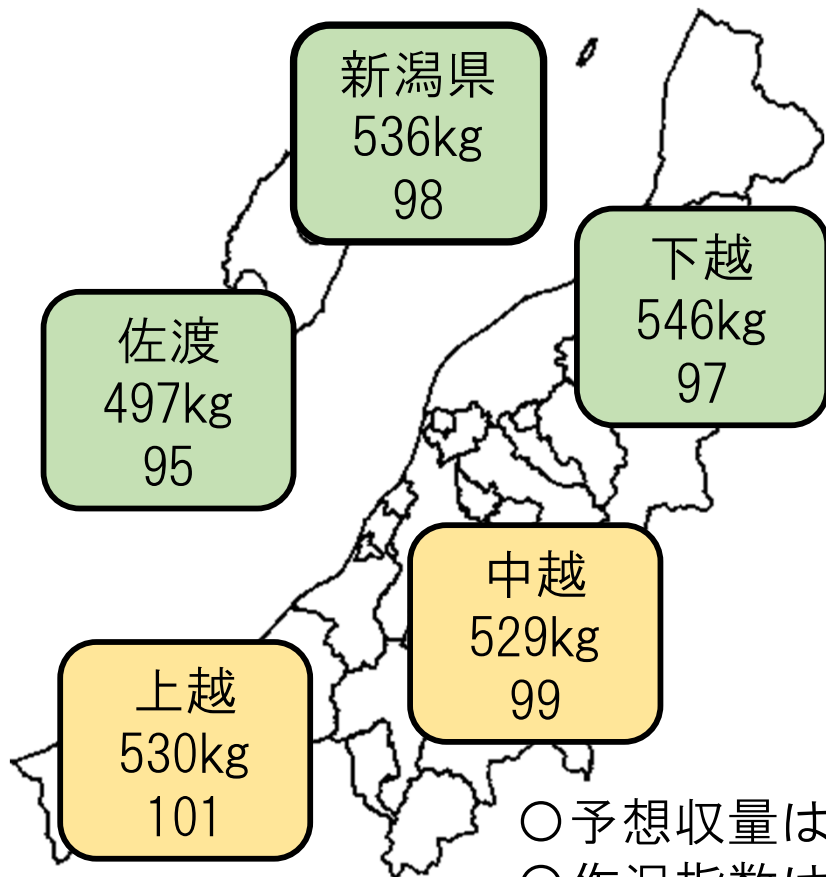


- 草丈は指標値に比べ、6月10日までは「並」、6月20日以降は「長い」状況で推移
- 茎数は指標値に比べ、5月30日は「やや少ない」、6月20日から7月1日は「多い」～「やや多い」となるが、7月10日以降は「並」で推移
- 葉色値は指標値に比べ、6月10日は「やや薄い」状況だが、6月20日以降「並」～「濃い」で推移
- 出穂期以降の葉色値は「並」～「やや濃い」

令和6年産水稻の作柄状況

水稻の地帯別の10a当たり収穫量と作況指数

- 作況指数は98の「やや不良」の見込み
- 穂数が「やや少」で1穂朶数が「平年並み」のため全朶数が「やや少」、登熟は「平年並」の見込み



区分	穂数	1穂朶数	全朶数	登熟
新潟県	やや少	平年並	やや少	平年並
下越	やや少	平年並	やや少	平年並
中越	平年並	平年並	平年並	平年並
上越	やや少	平年並	やや少	やや良
佐渡	やや少	やや多	やや少	やや不良

○予想収量は1.70mmのふるい目幅ベース

○作況指数は農家が使用しているふるい目幅ベース(1.85mm)

<令和6年10月25日現在、北陸農政局11月19日公表> 6

令和6年産の等級の状況

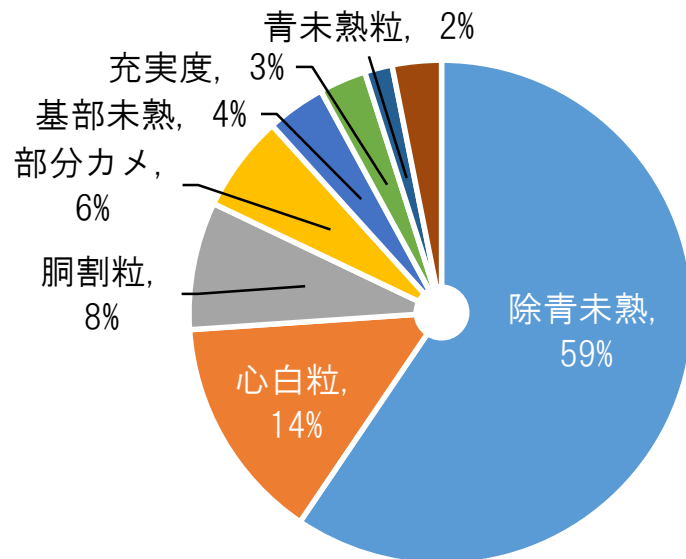
○主要品種の1等級比率（％）

品種	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	平均値
ゆきん子舞	88.9	87.4	87.9	62.3	89	81.0
こしいぶき	88.0	64.8	54.7	13.3	88	66.2
コシヒカリ	69.2	87.5	80.3	4.7	71	68.4
新之助	98.0	88.0	97.7	94.7	98	95.2
うるち全体	73.5	78.7	73.9	14.8	78	68.0

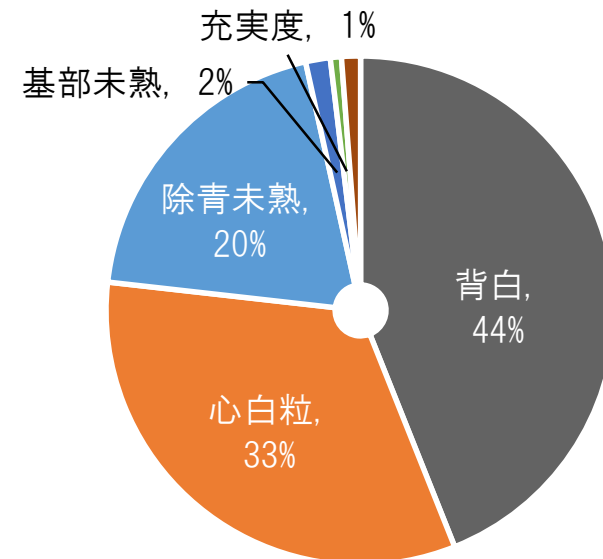
注）農林水産省公表（令和4年まで確定値、令和5年は6年3月末現在速報値、令和6年は県内検査機関聞き取り10月31日現在、平均値は過去10年間の平均、新之助は8年間の平均）

○コシヒカリの格付け理由

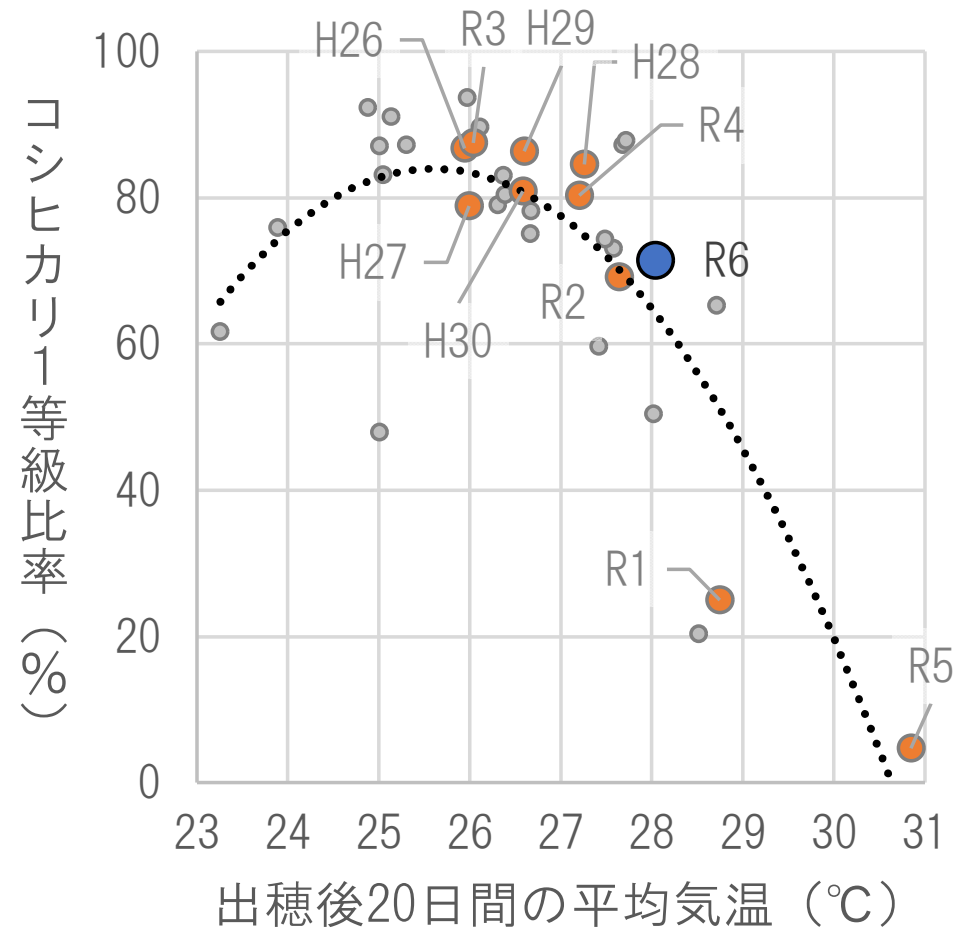
格付け理由の内訳



<参考 令和5年の格付け理由の内訳>

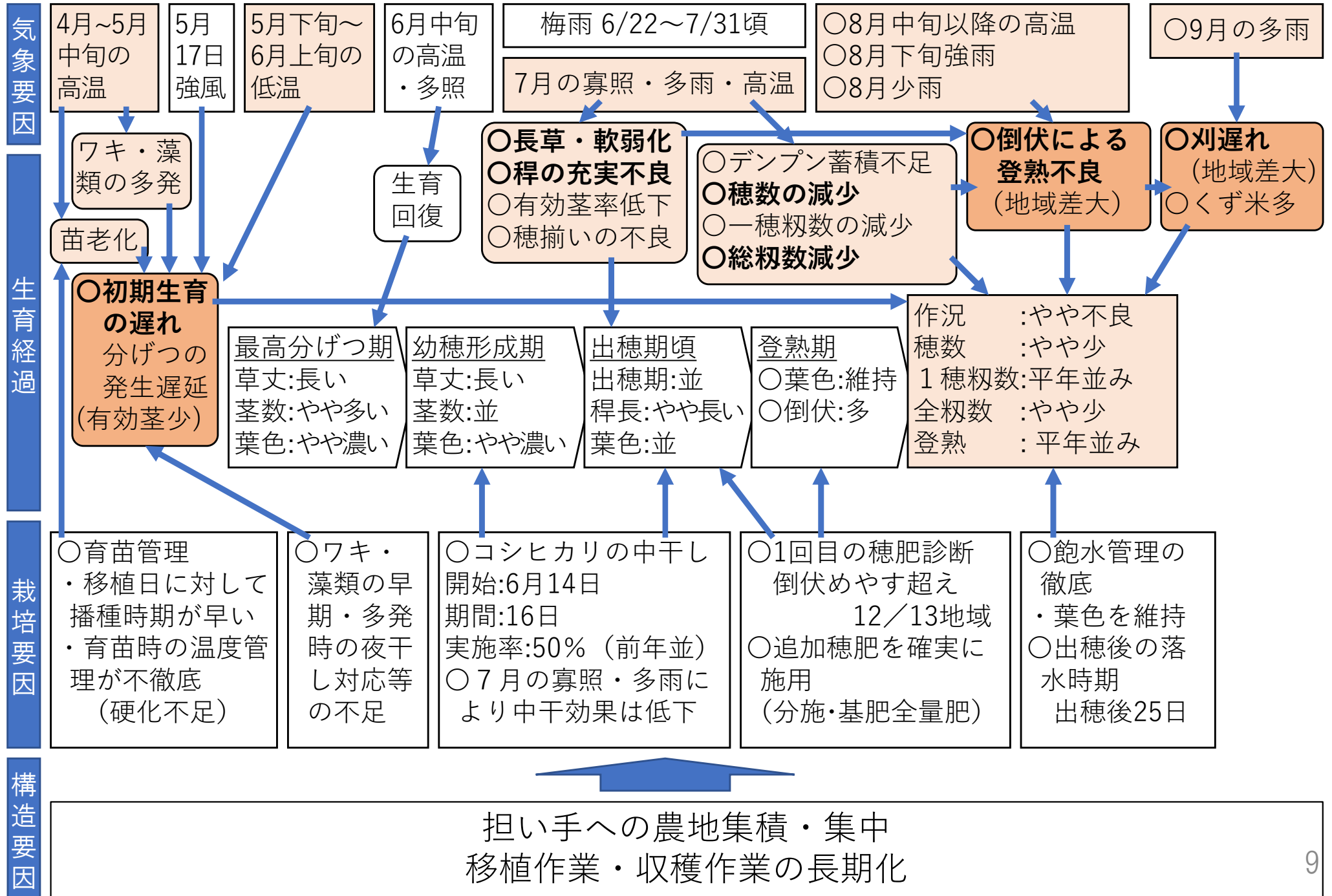


出穂後20日間の平均気温と1等級比率 (コシヒカリ)

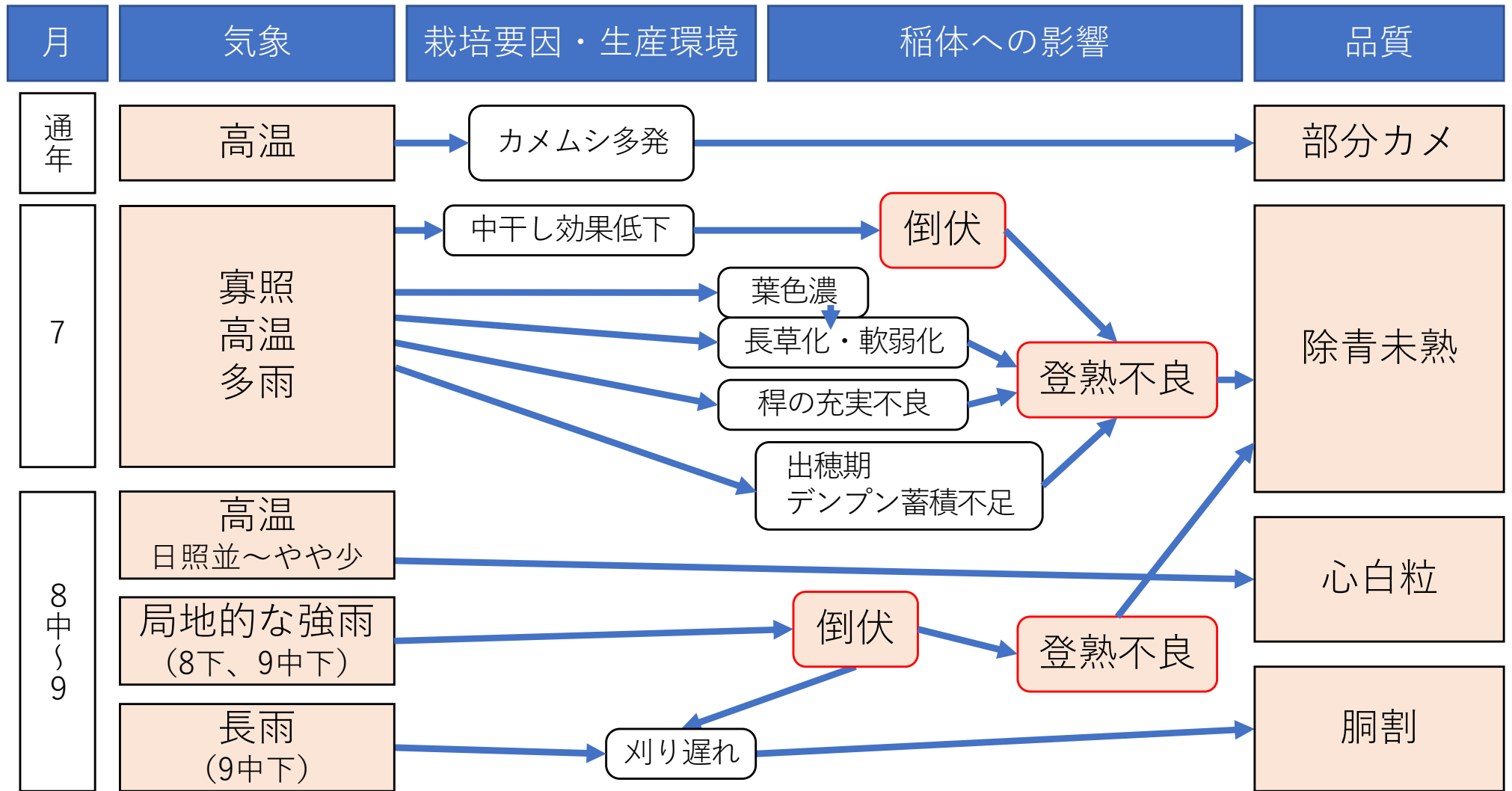


- 令和6年の出穂後20日間の平均気温は28℃
- 令和6年産の1等級比率71%（県内検査機関聞き取り10月31日現在）

作柄に影響した要因の関連図（R6コシヒカリ）



品質に影響した要因の関連図（R6 コシヒカリ）

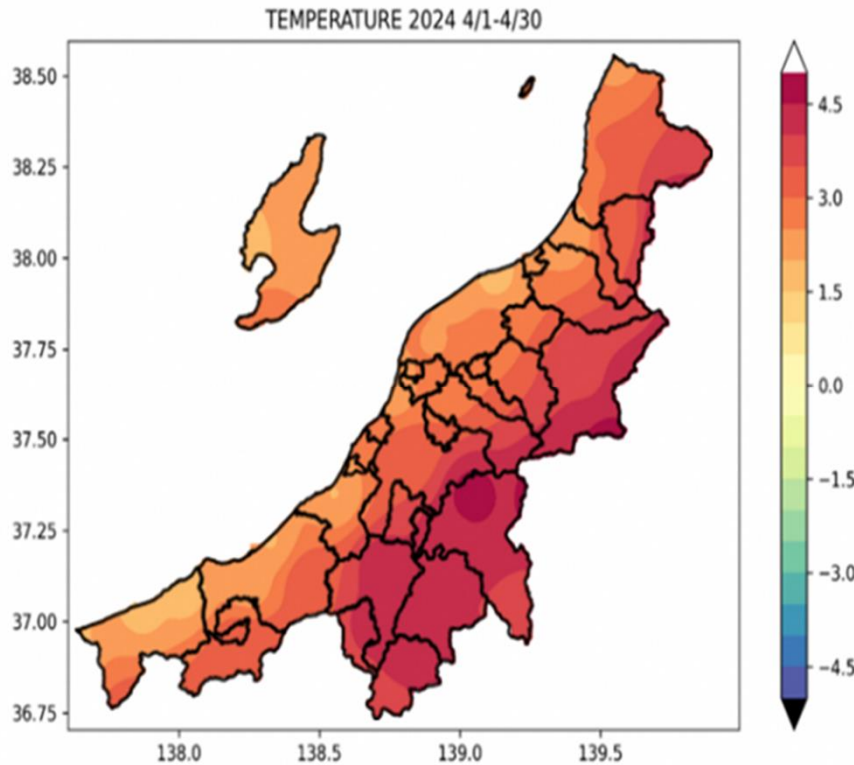


作柄・等級への要因の地域差（R6コシヒカリ）

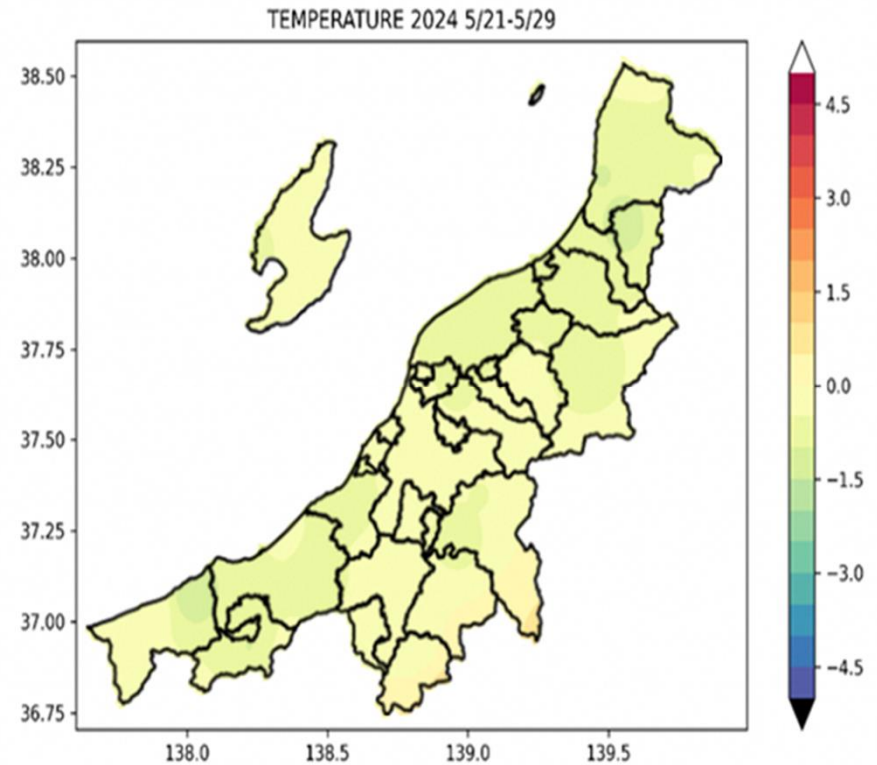
地域	要因						
	作柄	1等級 比率	出穂前 日照不足	出穂後 日照不足	早期倒伏	倒伏	刈遅れ
岩船	97	71%	●●●			●●	●
下越		71%	●●●		●	●●	●
中越	99	79%	●●●		●●	●●	●
魚沼		67%	●	●●●		●●●	●●
上越	101	89%				●	
佐渡	95	46%	●●		●	●●	●●●

※●●●は非常に大きな影響、●●は大きな影響、●は影響が見込まれる要因
 ※1等級比率は県内検査機関聞き取り 10月31日現在

初期生育の不良による収量低下



○平均気温（移植前：4月）



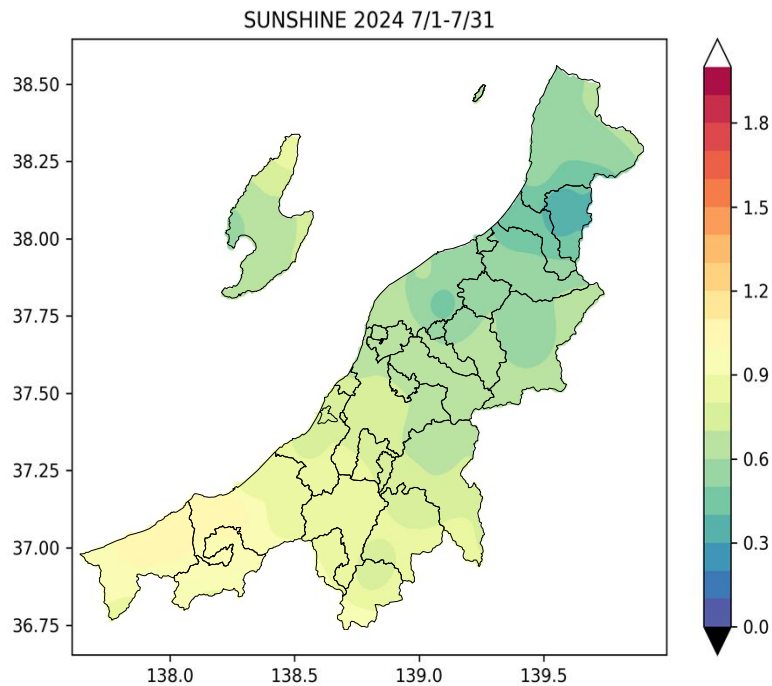
○平均気温（移植時期頃：5月下旬）

- 4月は気温が高く、苗の生育が早まったが、移植を早められず苗質悪化
- 5月下旬頃の低温により苗の活着、分けつ発生の遅れ



穂数減 → 収量低下

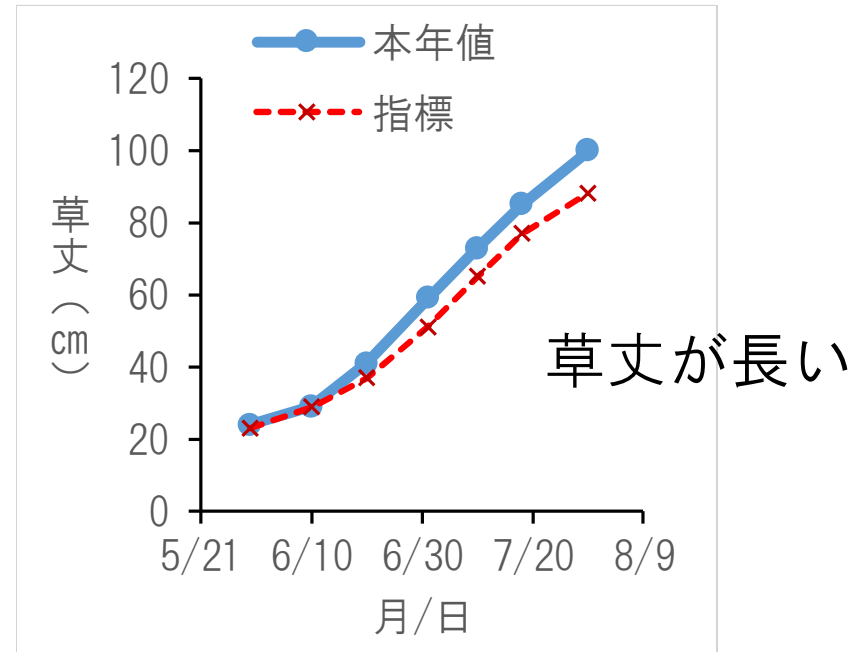
倒伏の要因（草丈の伸長）



日照時間（出穂前：7月）

○出穂前の気象

- ・日照時間：下越、佐渡で平年比0.4~0.8
- ・気温：高い

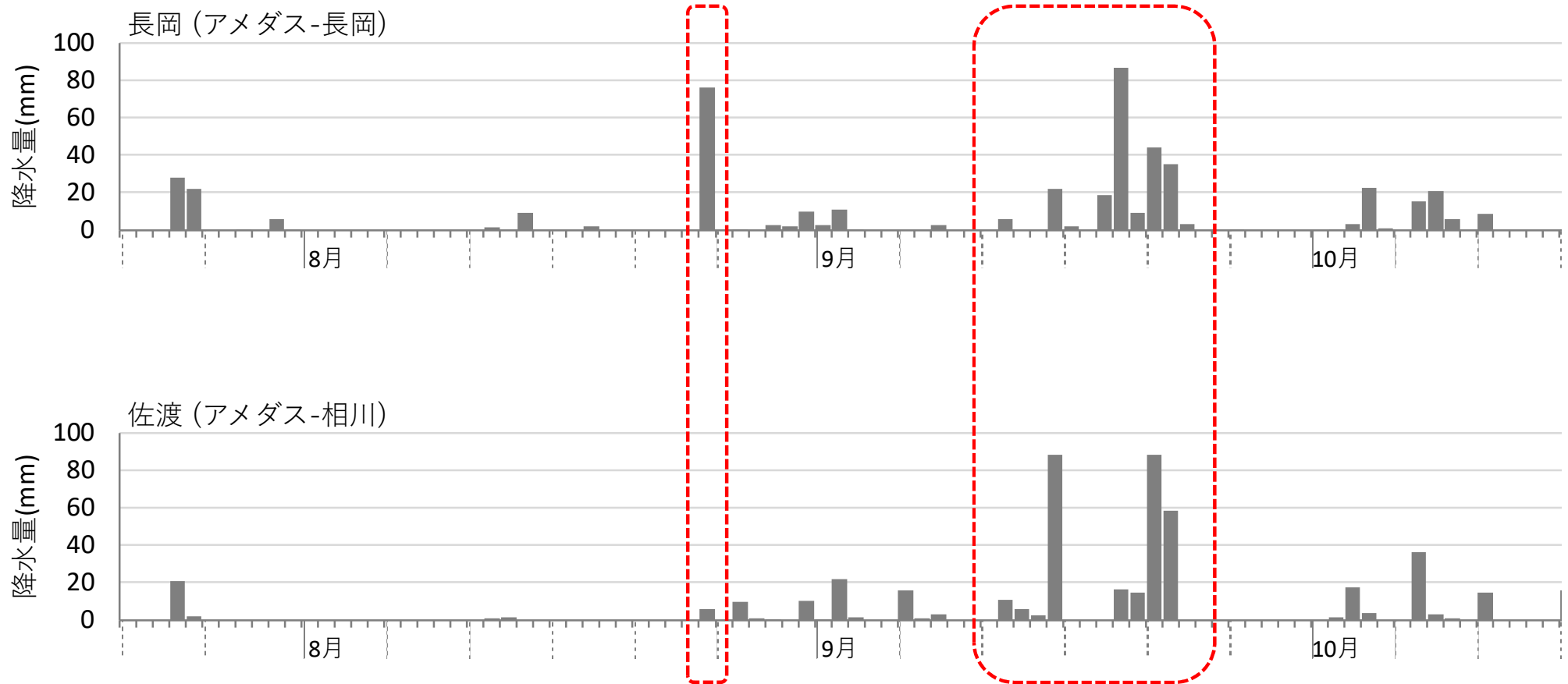


出穂期後15日の稈長（生育調査ほ）

本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値 比・差
98	92	やや長い	107

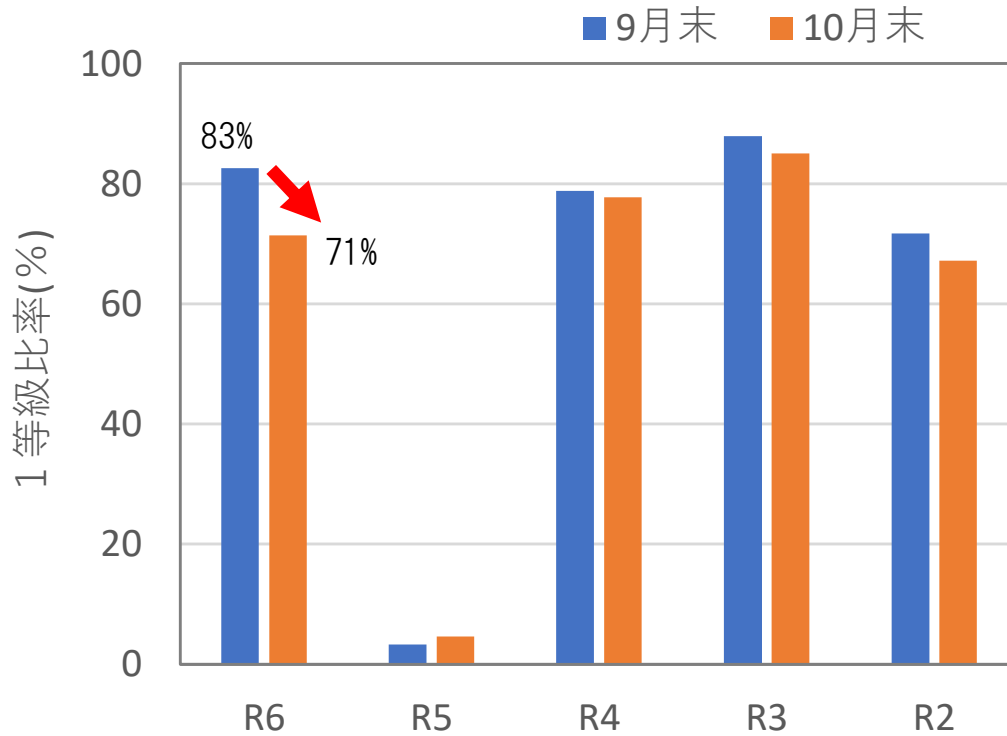
倒伏を助長

倒伏の要因（降雨）

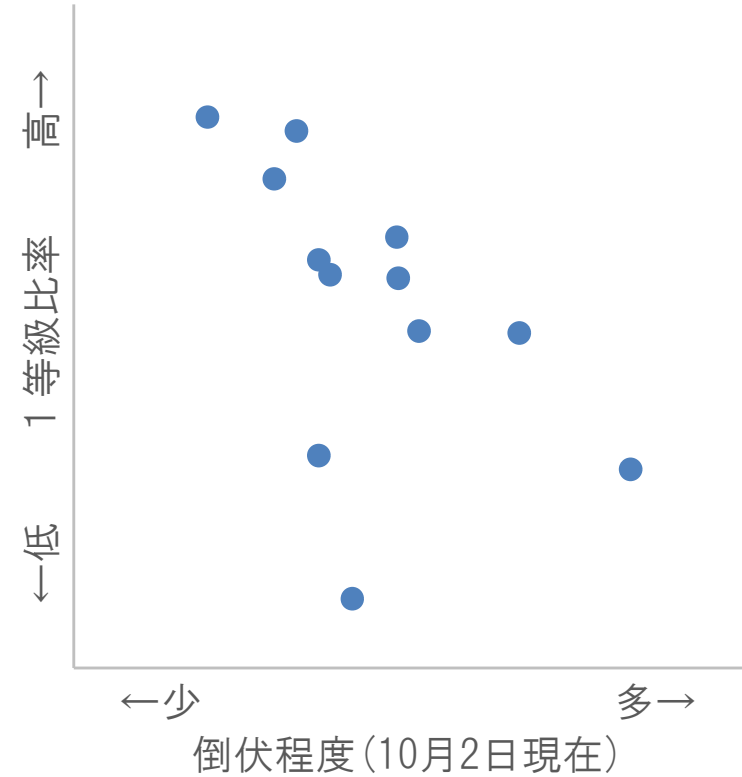


- 8月25日の強雨により早期に倒伏
- 9月の降雨で倒伏助長 → 刈遅れ

倒伏による等級低下



9月末及び10月末現在の
コシヒカリの1等級比率 (%)



倒伏により収穫遅延



刈遅れにより等級低下

倒伏程度が大きいほど
等級低下

令和6年産米のまとめ

[作柄]

- 新潟県の作況指数は「98」、地域差が大きい
- 佐渡「95」、下越「97」では、初期生育不良による穂数不足の影響が大きい

[品質]

- 1等米比率は、うるち全体は78%、コシヒカリは71%となり、昨年度から大きく回復
- 格付理由の約6割が「除青未熟」
(昨年度は「背白」と「心白粒」で約8割)
→ 高温による影響は後期栄養対策を実践できたため低減できたが、倒伏が等級に影響